

# 平成 30 年度 大阪府立旭高等学校 第 1 回学校運営協議会

日時：平成 30 年 7 月 2 日（月）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分

場所：本校校長室

委員

|     |                       |        |
|-----|-----------------------|--------|
| 会長  | 関西大学文学部 准教授           | 森 勇太   |
| 副会長 | 大阪市立旭陽中学校 校長          | 進藤 文代  |
| 委員  | 大阪市立高殿小学校 校長          | 北浦 正美  |
| 委員  | 平成 28 年度本校 P T A 会計監査 | 徳島 美穂  |
| 委員  | 本校 P T A 副会長          | 佐藤 章子  |
| 委員  | 本校 P T A 会計           | 安藤 裕美子 |

## 1. 校長挨拶

震災時とその後の大雨警報時の学校の状況と対応の報告、テスト日程変更の説明  
「学校協議会」から「学校運営協議会」への変更点

## 2. 自己紹介

### ①委員自己紹介

- 大学における震災の状況や対応の紹介、帰宅困難な学生は大学寮に宿泊させ対応
- 中学校における震災の状況や対応の紹介 インターネットによる情報収集が有効であった
- 保護者の地震の時の思いを語られる。「携帯電話をロッカーに入れる指導は、こういった災害の時は、生徒の現在地点がわからなくて不安に思った。メール以外の連絡方法も必要ではないか。」「自宅が安全だからと言って生徒を帰宅させても、共働きの家庭なら親が家へ帰れないので、かえって不安に感じることもある。」

### ②事務局員自己紹介

## 3. 今年度の学校経営目標と現状報告

### ①校長より「平成 29 年度経営計画及び学校評価」資料説明および概要説明

### ②校長より「平成 30 年度経営計画及び学校評価」の紹介

昨年と大きな変更はない。中期目標は 3 年間を視野に入れ考えているので、数値目標は見直しているが、大きな目標は変えずに掲げている。

### ③生徒指導主事より

- ・ルールは昨年度を踏襲
- ・遅刻の数を減らす。身だしなみ（化粧）をしっかりと。自転車事故の多発をうけて交通マナーを守ることを目標とする。
- ・特に秋以降に遅刻が減るよう指導。指導時に、化粧やピアスが目立つ生徒がいたときには正門で声をかけ、ルールにそった身だしなみにするよう粘り強く指導。
- ・交通事故がやや増加しており、交通マナーを守ることはもちろん、時間に余裕を持った行動をとるようという指導を強化している。
- ・地震当日及び数日は余震を考慮し、携帯電話のスイッチを切って、教室内に持ち込むことを認めた。

今後、携帯電話の平時保管の方法については検討をしたい。

- ・ 体育祭は生徒のアンケートをみても満足度の高いものとなった

#### ④保健主事より近況報告

- ・ 保健室来室生徒の特色として、話を引き出すための時間がかかる生徒が増えている。
- ・ 近年、体育祭や文化祭の取組の中で、友人とトラブルになって保健室で相談するため来室する生徒が多くなる傾向がある。

#### ⑤図書教養部長より

- ・ 留学生の近況

#### ⑥情報部部長より

- ・ 生徒用コンピューターは性能があがった。
- ・ メルマガを配信している。
- ・ 故障したものの買い替え予算が不足している。

#### ⑦進路指導部より

- ・ 生徒が早く進路先を決めてしまいたい気持ちから、推薦入試、AOなどかなり早期に入学が決まる入試に流れがちであるが、センター試験、一般試験まであきらめずにチャレンジするように指導している。
- ・ 就職を希望する生徒も少ないがいる。(その中で、社会人としての心構えの指導もきちんと行っている)
- ・ 昨年度の現役合格者減少は、文科省からの定員超過に対する指導があって大学が合格者を絞ったためと考えられる。
- ・ 学生支援機構の第1種、第2種奨学金の応募が200名を超えており、また昨年から給付型奨学金の応募も始まり、教員の事務負担が重くなっている。
- ・ 大学入試改革はまだ何も見えてこず、対応、準備に苦慮している。一層の情報収集を進めたい。

～休憩～

#### ⑧3年生学年主任より

- ・ 体育祭応援団の指導について、昨年、生徒が注意を受けても何度かルールを逸脱してしまった結果、体育祭当日のプログラムの中で発表できないという大きなペナルティを経て、本年は、2年生のうちから係の先生と生徒たちの間で何度も話し合いをしながら、指導を進めてきた。当該学年としては、生徒らがルールを守りながら素晴らしい応援パフォーマンスを上げることができ、順調に進みほっと安心している。
- ・ 1年時は少なかった遅刻が、増加しているのが課題である。しんどい事情を抱えている生徒の指導には、厳しさと優しさのバランスが難しい。
- ・ 進路については、個人個人が孤立するのではなく、お互いに励まし合いながら頑張ろうと呼びかけている。

#### ⑨2年生学年主任より

- ・ 体育祭、文化祭、修学旅行に順調に取り組んでいるが、遅刻が増加した生徒も見られるようになった。
- ・ 大学のオープンキャンパス等に参加を促し、進路意識を高めるよう努力している。

#### ⑩1年生学年主任より

- ・ 学校に慣れてきたように思う。“自分も他人も大切にする”をモットーにしている
- ・ 生徒支援委員会の協力で、スクールカウンセラーの先生を講師に、“ゲームを通じてコミュニケーション

ョンを学ぼう”を実施した。

- ・携帯電話の依存が見られ、ルールを守れない生徒がいることが懸念される。

#### 4. 協議・意見交換（司会：協議会会長 ●委員 □学校側事務局員）

- ：保健室の様子で、「時間をかけないと話を聞けない生徒がいる」との報告があったがどういうことか？
- ：生徒が保健室を訪れたとき、来訪の理由を聞き取る。まずは外科・内科関係に分類し、体の状況や食事、睡眠、便通など細かく聞き取り、対応をしていく。身体的要因ははっきりしないが心理的に「しんどい」「だるい」と保健室に来訪する生徒を支援するためには、家族関係や友人関係など時間をかけて聞き取る必要がある。
- ：そうした要因を抱えて保健室を訪れるケースは、大学では4月に件数が多いが、高校はどうか。
- ：4月は、進路のプレッシャーからか、3年生が多い。もちろん、1年生も多い。
- ：遅刻が多い生徒は特徴があるか。また、遅刻が多くなることから、不登校につながることもあるのか。
- ：遅刻の理由として、体調不良を挙げる生徒が増えた印象がある。
- ：うっかり寝坊したなどの不注意による遅刻は減らさなければならないが、不眠による睡眠不足などが原因で遅刻が続く場合は、別の指導方法も考える必要があると思っている。規律性調節障害が疑われるケースもあるなど、生徒の現状を見ながら対応していきたいと考えている。
- ：体育祭のルールを生徒と作ったとはどういうことか。
- ：体育祭の応援団活動のルールのことである。昨年、外部の公園で夜遅くまで練習するなどルールを逸脱した活動があり、さらに注意を受けてもルールを守れなかった結果、体育祭当日のプログラムの中で発表できないというペナルティがあった。このことを踏まえ、今年は、先輩に負けない素晴らしい応援パフォーマンスを作り上げるという伝統を受け継ぎながら、安全で、授業や進路にも無理のない準備をおこなうためにはどうすればよいか、2年生のうちから係の先生と生徒たちの間で何度も話し合いをした。そして、校内での活動時間、授業時間、模試とのバランスなどを考えながら、ルールをつくっていったということである。
- ：高校生のうちから交渉力をつけるのは良いことだ。生徒たちにとってはとても良い経験になったのではないか。
- ：昨年度、応援団員個人から追加徴収する費用が高額になったため、今年度は費用の上限を生徒に伝えた。時間や予算に限度があるなかでの活動が生徒にとっての課題であったが、そうしたことを考えるよい機会になった。
- ：こうした葛藤から生まれた応援団の活動ルールの精神を、これから受け継いでいければよいが、今年度のようにいくつかは課題であろう。
- ：クラスによっては、勉強しようという雰囲気ではないと聞くが、実際はどのような雰囲気か。
- ：クラスによって異なるのではないか。早朝から毎日勉強している生徒がいる一方で、まだまだ勉強する雰囲気ではなくはしゃいでる生徒もいる姿を目撃している。
- ：2年生も早朝から勉強している生徒がいる一方で、はしゃいでいる生徒がいる。
- ：土日でも勉強しに来ている生徒がいる。休み時間は授業に集中するための切り替えの時間なので、勉強は強制できないだろうと思う。
- ：国公立受験者の数はどうなっているか。

- ：5教科を受験しなければならないため、勉強量と勉強時間の配分をバランスよくやらなければ、合格しない。大阪近辺の国公立大学だけでなく、地方の国公立大学も志望校として考えていけば、進学割合も増えるだろうが、生徒・保護者ともに地方の国公立は希望していないのが現状である。
- ：関西にある家から通える大学に進学希望する傾向が、ひじょうに強い。
- ：国公立の良さは、教員に対する学生の割合が少ないという部分にあるので、地方の国公立の良さをアピールしてはどうか。
- ：保護者の立場から、授業料を考えると私学より国公立を勧めてもらいたい。また、推薦よりセンターや一般入試で入学したほうが良いのではないか。
- ：浪人し予備校に通う生徒の割合は増えているか？
- ：今年度は、大学の合格者絞りのため増えている。同時に専門学校の割合も増えている。
- ：大学から見た今後の入試の動向を教えてください。
- ：大学の定員絞りは続いていくだろうと思うが、2020年の大学入試改革が始まると、私立と国公立の入試における垣根は低くなっていくのではないかと考える。私の勤める大学でも、2019年度入試からセンター試験と小論文を組み合わせた試験ができる。
- ：英語の外部検定4技能テストの入試への利用等の動向はどのようになるか？私立はどこまで英語外部検定を入試に利用するのか？
- ：私立大学も入試に組み込んでいるが、今後の動向を見ている段階である。

## 5. 校長謝辞

## 6. 事務連絡